

岐阜支部



2014年4月号

全国障害者問題研究会岐阜支部 〒500-8879 岐阜市徹明通7-13 岐阜県教育会館401

TEL/Fax 058-253-7033 Email zenshouken_gifu@yahoo.co.jp

「～を楽しむ」「～を味わう」を 大切にする授業を！

堀喜久男(特別支援学校教諭)

県内特別支援学校の公開授業研究会で、中学部重複学級の授業を参観した。授業者はベテランの女性教師と中堅の女性教師と若い男性教師、生徒は3人。生徒達は、知的障がいが重度で表出言語は見られないものの、教師の介助で多少移動できる様子だった。

この重複学級グループの研究テーマは「グループ学習の中で集団のメリットを活かしつつ、個のねらいに迫る授業づくり」であった。授業展開もそれを意識して、最初にボールをみんなで集めるという目標が提示され、中盤にボールを各自が集める個別活動があり、最後に集めてボールを一斉に流して楽しむという構成だった。

授業が進むにつれて私は少し訓練的な感じを受けるようになった。特に個別活動でそれが感じられた。いくつか挙げてみる。

ほめ言葉がほしかった

1人の生徒が目の中の輪っかを引くという課題場面。教師は生徒と少し距離をとって対面し「よく見て」「もう一回」「輪をください」といった指示をしているが、ほめ言葉があまり聞かれない。公開授業で教師も緊張しているということも当然あるだろうが、活動目標の設定に原因があると思った。指導案には「慣れ親しんだ環境の中で、落ち着いて個々の課題に取り組む」とあり、その下にある本時の個人目標には「～して移動する」「～して引っ張る」「～



して取り組む」とある。これらは「出来たか出来なかったか」が明確な行為に対する目標である。一方「～を楽しむ」「～を感じる」「～を味わう」といった内面についての目標は見当たらない。

楽しく～は目標にならないのか

別の生徒が若い教師と筒状の教材にボールを入れるという個別活動。知らない大人が周りを取り囲むという状況に不安を感じたのだろうか、その生徒は個別課題の間中ずっと興奮して大声を上げ、身をよじらせながら座っていた。この場面での教師の困り感は同業者としてよくわかる。これは公開授業なのだ。少し外で気分を変えて散歩へというわけにいかない。生徒をなだめながら何とかボールを筒に入れさせようと奮闘してみえた。20分ほどの間に2、3個入っただろうか、しかし終わり近くになって若い教師はベテランの教師に「今日は調子が今一つなので、ボールを減らしてもいいですか」と聞いていた。よく見ると生徒の脇のかごの中にはまだ20個近いボールがまだ残っている。生徒の課題はかごの中のボールを全部筒の中に入れることだったのだろう、しかし今回は課題を達成することができなかった。指導案にあるこの生徒の目標は「～してボールを持つ」「～の位置を触察する」「～取り組む」であった。楽しく活動することは目標にはない。

授業の振り返りの場面、ベテランの教師が「今日、頑張った人！」と聞き、生徒達は教師に介助されながら手を挙げた。この「頑張る」という言葉であるが、教師が準備した活動が好きかどうかや楽しいかどうかは別として、一生懸命取り組みなさいというニュアンスが感じられた。頑張らないと評価されないのか。

子どもの内面にこそ注目を

私は訓練的な授業になってしまう理由の一つは子どもの内面に対する注目が弱いからではないかと思う。個人目標に行為や行動目標が掲げられることはある程度妥当だとしても、授業目標に心の内面の目標である「～を楽しむ」などが掲げられないと授業が味気ないものになってしまうのではないだろうか。

問われるべきは支援教育全体！

私は、授業をした教師個人の教育観や指導観について述べたいわけではない。先生方は、一生懸命考えて授業づくりをされていた。私が問われるべきと考えるのは、学校全体、特別支援教育全体である。何故なら、私が当日いただいた冊子には、他の公開授業の指導案も一緒に綴られていたが、そのいずれの授業目標も行動や行為に絞られていた。これらの指導案の「本時の展開」には「評価の観点」が示されていたが、ここでも注意深く曖昧な表現が除かれ、具体的行為や行動が観点として示されていた。つまり、学校組織として授業目標から内面に関する目標を取り除こうとする意図が強く感じられるのである。一方で指導案の「生徒の実態」や「活動より」の項目

の文章の中には「安心できる環境」「達成感」「自己肯定感を高めて」といった心の内面を重視した言葉が見られる。つまり、個々の教師は大切な価値観として内面を重視していることが読み取れる。あくまで推測だが、指導案が研究部、研推委と上がっていく過程で目標や評価の部分に修正が加わっていくのではないだろうか。そしてまた研究部など指導的な立場の教師も、全国的な流れの中で考え方の修正を余儀なくされているのではないだろうか。三木裕和さん（鳥取大）は、近著「希望でみちびく科学」の中で次のように述べている。『近年、障害児教育における教育目標、教育評価に関して、その「客観性」を求める考え方が、異常と言えるほど強くなっている。従来、教育実践現場でよく使用されてきた表現、例えば「〇〇を楽しむ」「△△を味わう」など、児童生徒の内面を推測するような文言はあいまいで主観的だと忌避され、「客観的に測定可能なもの」「達成できたかできなかったか、明確にできるもの」だけを教育目標、教育評価にするよう指導する風潮が広がっている。』

私は全障研に出会ったことで、発達の子どもをみるという視点を学ばせてもらった。子どもが何かができるようになる時、その子の内面も影響される。逆に内面が変化することで行動が変わる。運動、認知、言語、思考、情動は相互に関連しながら発達していく。学校教育においても、そうした発達の視点をもって授業づくりをしていきたい。全障研的な教育観をもった先生方が職場の多数を占めるよう私も頑張りたい。





私と障害児教育、そして、これからの課題…

松井和子

岐阜県中津川市生まれの私の幼い日の記憶。地震で父に抱えられ広場に。敗戦の年母が臨月だったため近くの魚屋のおじさんに背負われて見た、打ち上げ花火のような多治見空襲。そして、その後の私に大きな影響を与えたであろう不具合。ずっと続く医者通い、病弱で偏食、じんま疹で全身が腫れ学校をよく休み、右耳は慢性中耳炎でほとんど聞こえなかった。

そんな私は、中津川を出て教員になることを決め、岐阜大学に入学した。岐阜大学にまだ障害児教育の部門はなく、障害児のサークルをときどき覗いたりしていた。小学校教員になって3年、夏休みに聾教育の研修などに通ったりしていたが、希望する聾学校に教員の空きは無く、当時下川手にあった岐阜市立岐阜養護学校への転勤を決めた。それは、いまに至るまで、多くのことを教えられた井藤直子さんとの、そして全障研との出会いだった。

1978年子どもたちの「就学免除・猶予」は廃止、1979年障害を抱えた子どもの教育は義務化された。それは、たゆみない運動の成果だった。1980年国際障害者年が迫っていた。

東海地方では1973年名古屋市に本山市政が誕生し、彼の、「人間としての真の幸せを願い、憲法の精神にもとづいて、ひとりひとりの基本的人権が守られ、健康で文化的な生活のいとなめる個性豊かなまち」構想は、障害を抱えた子どもやおとなたちにも道を拓き、岐阜の私たちをも励ました。岐阜養護学校の教室で、名古屋から西尾さん親子を招いて、その経験に学び、「不就学をなくす会」を発足させた。子どもや親たち、兄弟たちとの様々な集い、そして作業所づくりへと広がって行った。毎週全障研の部屋に仕事を終えた指導員や教員たちが集まった。

いま、私は2011年に起きた東電福島第一原発事故と向き合っている。

ベトナム戦争の枯葉剤使用、1996年チェルノブイリ原発事故、1990年湾岸戦争2003年イラク戦争などで使われた「劣化」ウラン兵器によって生まれた障害児たち。そして日本で起きた、人類が経験したことのない人工密集地での多重原発事故は何をもたらすのか。

人は生きもの。そのいのちは何億年もの年月を経て受け継がれてきた。新たないのちを、放射性物質・有害化学物質に晒してよいのか。私がいま全障研に願う一番の課題だ。（2014.4.6.）

4月5日(土)に、第8回準備委員会が開かれました。そこで報告・検討された内容で主だったものをお知らせいたします。

☆ホームページ開設の準備が進んでいます

C-POWER というデザイン会社に準備委員会のホームページの開設や運営をお願いすることが決まっています。会社代表の肥田さんは、関養護学校を卒業した障害当事者であり、今回の協力をきっかけに、全障研の会員にもなってくださいました。今回、肥田さんからデザイン案の提示と説明がありました。

- ・ホームページの更新は、要望やデータを送れば、2日間でできる。
- ・関係施設や団体のホームページのリンクをはると、検索でヒットしやすくなる。

という説明もありました。リンクをはりたい、はってもよいという方、ぜひ事務局までご一報ください

☆ご当地ポスターを作成することになりました

以前から、ポスターに使用するイラストを募集していましたが、いくつかの学校や施設の仲間からたくさん応募していただきました。応募点数が多く、全ての方の作品を使用することは難しいと判断しました。

そこで、応募してくださった方が所属する学校や施設に掲示する大会ポスターは、その方の作品を使ったものにしてはどうか（ご当地ポスター）、という案が出されました。

また、大会当日の会場には、それまでに作成したご当地ポスターすべてを集めて展示する予定です。

まだ、間に合います。あなたのお近くに、素敵なイラストを描く方はいませんか？

☆今後のフシ企画の予定

第4弾（岐阜講座） 9月13日(土) 中部学院大学 各務原キャンパスにて

近藤直子さんを招いて

第5弾（高山講座） 10月5日(日) 高山市役所ホールにて

寺澤大祐さん、小森淳子さんの講演

第6弾（中津川にて）10月12日(日) 「ふれあい交流会」

ほっとハート、ラブ・ピース、かがやきキッズなどと共催

☆準備委員会の日程

○第9回 6月14日(土) ○第10回 7月5日(土) ○第11回 8月2日(土)

※すべて、岐阜大学地域科学部5階心理学実験室にて、15時より



これから毎月、大会準備の情報をお伝えしていきます。よろしくお願いたします。

